

東京都のビジョン・総合的な計画 に必要なこと

瀬田 史彦（東京大学）
seta@urban.t.u-tokyo.ac.jp

ビジョン・総合的な計画 (※) の変化

(※) ビジョン、総合計画、基本構想、基本方針、マスタープラン、グランドデザインなど。

- 高度成長期の総合的な計画：ブレイクダウン型
 - 全体の目標から、部分々々の役割を決める。
- 時代の変遷と、総合的な計画の変化：
 - ボトムアップ型社会（地方分権・住民参加）
 - 部分々々の集合として、全体が決まっていく。
 - 抽象的な計画か、または「ホチキス留めの」計画に
- ビジョン・総合的な計画の不要論も。

ビジョン・総合的な計画の不要論と反論

- ビジョン・総合的な計画を不要とする動き
 - 国土計画(全国総合開発計画)に対する批判
(※国のフィジカルプラン特有の問題も)
 - 市町村の基本構想の策定義務廃止
 - 行政改革など、リストラ的な政策の進展・普及
 - 政治的リーダーシップの強調
- ビジョン・総合的な計画がないことによる問題
 - 合成の**誤謬** (個別政策間の矛盾)
 - 優勝劣敗の助長、**衰退地域の見離し・見限り**
 - 政策の**原則の不在** (平等性・公平性が担保されない)
 - これらを総合的な計画・グランドデザインで解決。

例) 高齢化・人口減少にかかるビジョン

東京(都)を取り巻く状況 (踏まえるべき前提)

- 都心周辺間、自治体間、地区間の格差拡大
(生活に支障が生じる地区が増える恐れ。)
- 使われず放置される土地・建物の増加
(実際には何か需要がある場合でも使われない。)
- 対策には凸凹があり、時間もかかる。
(都市計画と福祉が連動していない。また市中心部や駅前で再開発や公共施設の集約・多機能化が進んでも、市街地は集約していない。)

例) 高齢化・人口減少にかかるビジョン(続)

ビジョン・総合的な計画に描くべきこと

- 関係する政策が連動した(誤謬のない)姿を示す
(都市計画と福祉／インフラ・公共施設・土地利用)
→ 時間的・空間的に整合した将来像を描く。
- 利用が所有に優先すべきという原則を提示する
(人口・密度減の恩恵は利用促進によって初めて得られる)
→ 空き家対策等、個別の施策をさらに書き込んでもよい。
- 将来の衰退地域に配慮した、分散型構造を想定する
(通勤圏縮小を考慮／どこでも一定のサービス・アメニティ)
⇔ 都心の魅力向上は、民の活用と障壁の排除で実現。

※ 2040年は(22世紀の「定常理想社会」の)過渡期的な姿に。
(施策効果発現にかかる時間／技術革新の不透明性)

補足) 東京大都市圏の発展と 東京都のビジョン・総合的な計画

- 東京大都市圏を一体として計画したいが・・・
 - 東京都は東京大都市圏を包含していない。
 - 東京大都市圏を包含する主体も(国以外)存在しない。
- **広域連携**としてやるべきこと
 - 「東京批判」に対応し、真の共存共栄を模索する。
ex) (特に就業)人口、廃棄物、水、電力、食糧、・・・
 - 周辺縣市と方向性を共有する。
 - 各都県市のビジョン・総合的な計画に反映させる。

(終わり。ご清聴ありがとうございました。)